

# 米国農務省穀物等需給報告(2015年4月9日発表のポイント)

平成27年4月10日  
大臣官房食料安全保障課

米国農務省は、4月9日(現地時間)、2014/15年度の12回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

—2014/15年度の穀物全体及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み—

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量:24億8,131万トン(対前年度比0.3%増)
- ② 消費量:24億6,400万トン(対前年度比1.6%増)
- ③ 期末在庫量:5億1,855万トン(対前年度比3.5%増)  
期末在庫率:21.0%(対前年度差0.4ポイント増)

### 【主な品目別の動向】

**小麦** :生産量は、米国で乾燥及び2014年4月の低温の影響により減少、カナダ等でも減少するものの、EUで春から初夏にかけての好天による増加、ロシア、中国の単収上昇等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量もEU、中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量:7億2,645万トン(対前年度比1.3%増)・・・EU、ロシア、中国等で増加、カナダ、米国、豪州等で減少
- ② 消費量:7億1,582万トン(対前年度比1.4%増)・・・EU、中国等で増加
- ③ 期末在庫量:1億9,721万トン(対前年度比5.7%増)・・・EU、ロシア、米国、中国等で増加、カナダ等で減少  
期末在庫率:27.6%(対前年度差1.1ポイント増)

**とうもろこし** :生産量は、ブラジル、アルゼンチンで作付面積減少、南アフリカでは2015年2月の受粉期に西部及び中央部産地で高温・乾燥に見舞われたことにより減少するものの、EUで2014年7月の豊富な降雨量と生育に適した気温、米国で記録的な高単収により増加すること等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量も米国、中国、EU等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

なお、アルゼンチンは、収穫が始まった早植えとうもろこしの単収が良好であること、現在結実期を迎えている遅植えとうもろこしは、十分な土壌水分に恵まれていることから、前月より上方修正。

- ① 生産量:9億9,192万トン(対前年度比0.3%増)・・・EU、米国等で増加、ブラジル、南アフリカ、中国等で減少
- ② 消費量:9億7,431万トン(対前年度比2.2%増)・・・米国、中国、EU等で増加
- ③ 期末在庫量:1億8,846万トン(対前年度比10.3%増)・・・米国、中国等で増加  
期末在庫率:19.3%(対前年度差1.4ポイント増)

**米(精米)** :生産量は、中国、米国等で増加するものの、インドでモンスーン到来の遅れによる作付遅延から収穫面積が減少、タイでは中央部で乾期米が干ばつにより減少することから、世界全体では前年度を下回る見込み。また、消費量は中国、インドネシア等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を下回り、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量:4億7,460万トン(対前年度比0.5%減)・・・インド等で減少
- ② 消費量:4億8,303万トン(対前年度比0.6%増)・・・中国等で増加
- ③ 期末在庫量:9,858万トン(対前年度比7.9%減)・・・インド、タイ等で減少  
期末在庫率:20.4%(対前年度差1.9ポイント減)

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、米国、ブラジルで収穫面積の増加と単収の上昇、アルゼンチンで単収の上昇によりそれぞれ史上最高となること、大豆がとうもろこしに比べ価格優位にあること等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量も中国、アルゼンチン、米国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

なお、アルゼンチンは、主産地の大部分で適切な降雨と気温に恵まれ、前月より上方修正。

- ① 生産量:3億1,546万トン(対前年度比11.2%増)・・・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加
- ② 消費量:2億8,892万トン(対前年度比5.8%増)・・・中国、アルゼンチン、米国等で増加
- ③ 期末在庫量:8,955万トン(対前年度比35.0%増)・・・ブラジル、米国、アルゼンチン等で増加  
期末在庫率:31.0%(対前年度差6.7ポイント増)

(参考1)

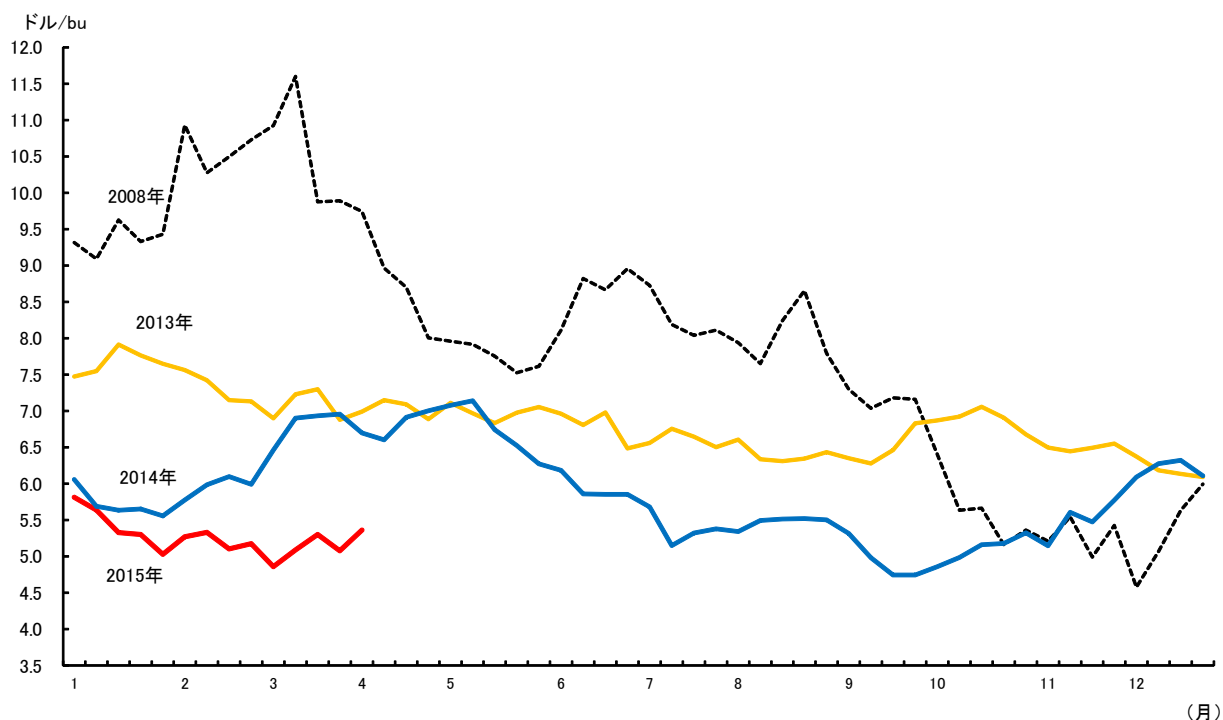
平成27年4月10日  
大臣官房食料安全保障課

## 世界の穀物の価格動向(2015年)

- 小麦:5.36ドル/bu(前年同時期の価格:6.70ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2014年2月以降、米国大平原南部の寒波による凍害や乾燥型の天候による冬小麦の作柄悪化懸念、ウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念から7ドル/bu台前半まで値を上げたものの、5月以降、世界在庫が潤沢であること、更に6月中旬以降は、割高な米国産の輸出需要が弱含みであること及び米国産冬小麦の順調な収穫進展等から値を下げ、一時、5ドル/buを割り込んだ。10月以降、大豆/大豆粕価格の上昇への追随や、米国、黒海沿岸地域での寒波による冬小麦の生育懸念やロシアの輸出規制導入懸念等から6ドル/bu台前半まで値を上げた。

2015年1月以降、世界的に潤沢な在庫・供給量が改めて確認される中、米ドル高の進展による米国産の割高感、米国大平原での降雨・降雪等から値を下げ、現在は5ドル/bu台前半で推移。



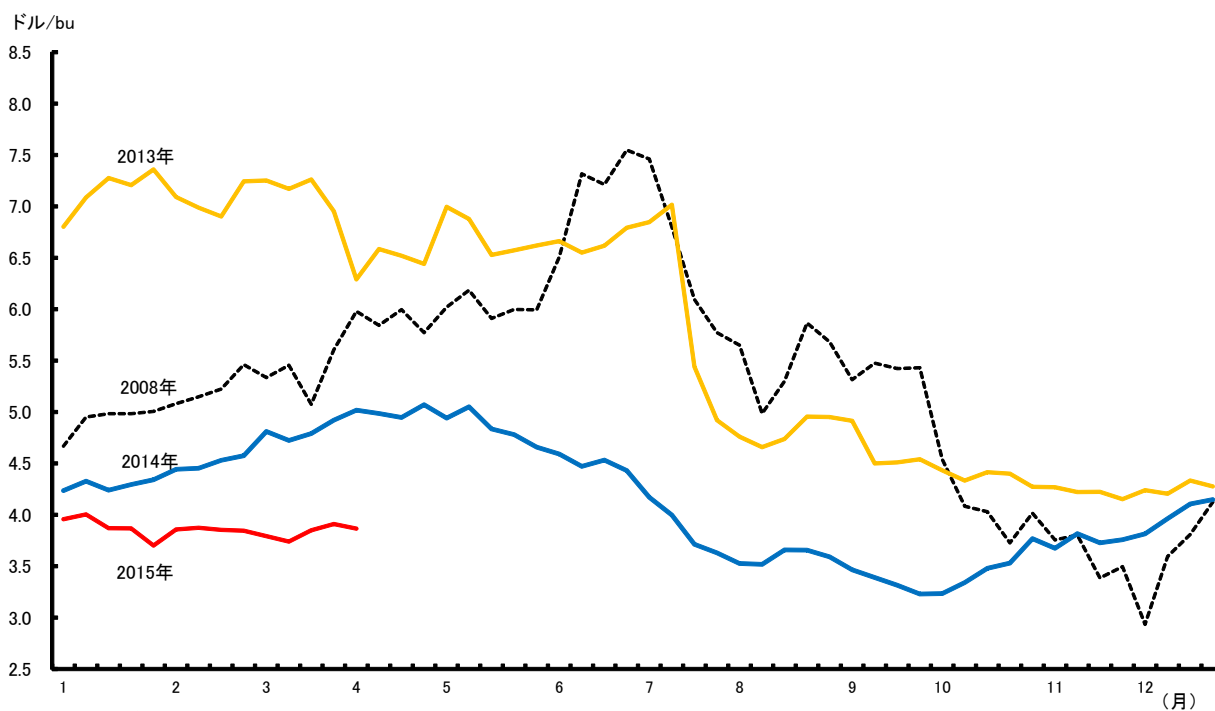
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

(月)

- とうもろこし: 3.87ドル/bu (前年同時期の価格: 5.02ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2014年1月半ば以降、堅調な輸出需要や2月下旬のウクライナ情勢悪化による同国の供給減少懸念に加え、米国コーンベルト北部での低温多雨による作付遅延懸念等から5ドル/bu前後に上昇した。5月以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから、3ドル/bu台前半まで値を下げたものの、10月以降、大豆/大豆粕価格の上昇等に追随して4ドル台/bu前半まで値を戻した。

2015年1月以降、南米の豊作見込み等からやや値を下げ、現在は3ドル/bu台後半で推移。

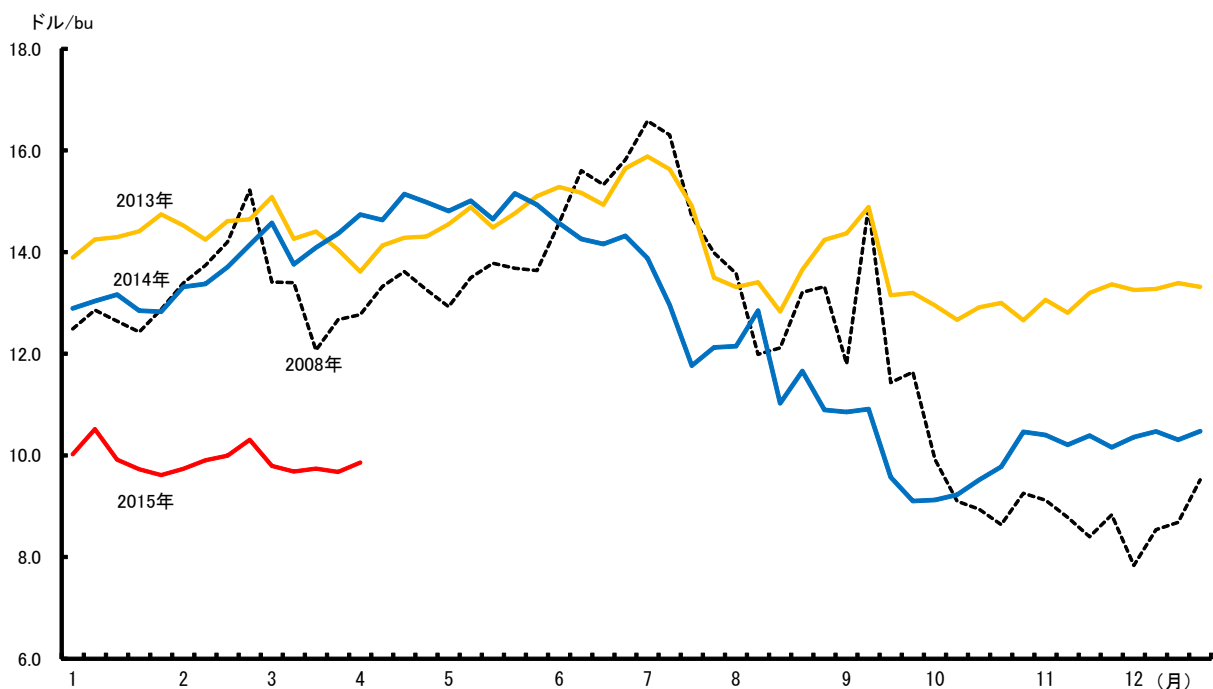


注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

● 大豆:9.86ドル/bu(前年同時期の価格:14.74ドル/bu)  
 (価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格。)

2014年2月以降、米国の堅調な輸出需要に伴う需給の引き締めやブラジルの高温・乾燥による作柄懸念から15ドル台前半まで値を上げたものの、5月中旬以降、米国で生育に適した天候に恵まれたことから9ドル台前半まで値を下げた。10月以降、大豆粕価格の上昇に伴って10ドル台前半まで値を戻した。

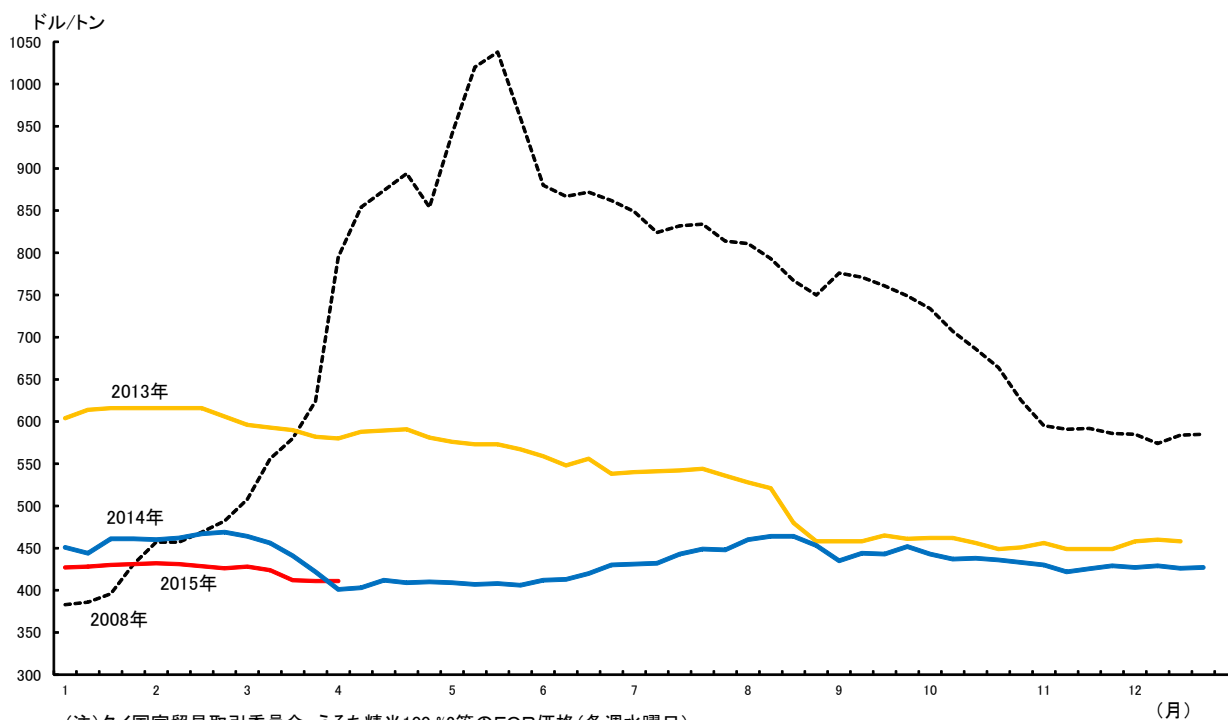
2015年1月以降、南米の豊作見込み等からやや値を下げた後、2月中旬から3月初旬のブラジルでのトラック運転手によるストライキを受けて一旦値を戻したものの、現在は9ドル/bu台後半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

- 米：411ドル/トン（前年同時期の価格：403ドル/トン）  
（価格は、タイ国家貿易取引委員会における4月第1水曜日のFOB価格。）

2014年3月以降、タイにおける更なる政府在庫の放出により値を下げたものの、5月末から8月末まで、タイが政府在庫の数量や品質を検査するために一時放出を停止したことにより8月には460ドル/トン台まで値を戻した。その後、積み上がった政府在庫を減少させるため、積極的に輸出を行ったことから値を下げ、現在は410ドル/トン台で推移。



（注）タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格（各週水曜日）  
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年1月	2月
113.26	116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	100.16	103.94	102.13
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月
102.27	102.56	101.79	102.05	101.72	102.96	107.09	108.06	116.22	119.40	118.24
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
118.57	120.39									

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年1月	2月
49.38	41.16	78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	53.75	50.25
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月
48.25	45.60	44.25	42.00	40.00	40.75	44.00	43.00	40.75	39.60	34.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
26.25	29.00									

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」  
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年1月	2月
56.56	66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	94.86	100.68
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	27年1月
100.51	102.03	101.79	105.15	102.39	96.08	93.03	84.34	75.81	59.29	47.33
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
50.72	47.79									

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成27年3月, 127頁  
但し、27年3月は、「U.S.Energy Information Administration」の3月27日までの週別価格の平均値。